

豊友会だよりの俳壇は、これまでページの都合上応募作品全てを掲載することができませんでしたが、全応募作品をご紹介したいと考えHPに掲載することにいたしました。まずは第七回俳壇分を掲載します。第六回以前についても順次掲載の予定です。 豊友会だより編集係

## 第七回豊友会俳壇（豊友会だより第66号）

### 兼題－1：蚕豆

投稿者	作品
赤塚慎一郎	そら豆の剥く音せはし手並かな
浅見 茂	病室のご馳走蚕豆すりつぶし
安藤 正紀	蚕豆と侘しき拭う手酌酒
石井 孝夫	蚕豆や天をめざして英ふくむ
岩井鑛治郎	蚕豆や薄皮残しし母の笛
小俣 祥忠	冷や酒と塩空豆の暮るる今日
海外 涼	蚕豆の向きに合はせて首かしげ
川上 千里	蚕豆や癖字の文の添えられて
川畑 耕祐	蚕豆をつまみにビール一気飲み
糸原 英雄	蚕豆の畑に立ちて出来を見る
黒山 茂英	朝もぎの蚕豆青き香青き味
小泉 隆広	蚕豆ははてひよつとこと夫婦かな
齋藤 修一	蚕豆の茹でたて旨きふうふうと
斎藤 光	蚕豆を剥き口遊ぶドレミファソ
櫻井 暎子	蚕豆をいくつ食べたかニツ三ツ
重田 康之	空に向く蚕豆の <sup>さや</sup> 英逞しき
田中 道泰	蚕豆や赤子は青き匂ひして
土田 悦男	天を指す未熟の蚕豆雲流る
野下 晴夫	若き日の故郷思う蚕豆よ
宮田奈津子	朝採れの札蚕豆に直売所
森 小百合	蚕豆と密な宴をやりマスク
矢倉 弘泰	蚕豆を剥く妻のゐる厨かな
矢治 宏之	蚕豆の旨み引き出す塩加減
屋代順治郎	蚕豆の弾ける匂ひ朝餉かな
吉武 繁廣	はじけ豆下校する子ら声高し

兼題－２：菊

投稿者	作 品
赤塚慎一郎	武者振りの比翼仕立や菊人形
浅見 茂	季節知る夕餉に並ぶ菊ひたし
安藤 正紀	畦の菊黄金に変わる晴れ舞台
石井 孝夫	菊かほる大和路たどり文殊仏
岩井鑛治郎	登り口を遠巻きにする「菊花展」
小俣 祥忠	白菊や喪服の肩の銀の雨
海外 涼	お吸い物色鮮やかに菊ちらし
川上 千里	羊羹の程よき厚さ菊膾
川畑 耕祐	法要に兄弟揃う菊日和
条原 英雄	飾られし有名人の菊人形
黒山 茂英	菊花展手足突っばるバギーの子
小泉 隆広	畝起こす牛を休ます野菊かな
齋藤 修一	菊人形寂しく湯島コロナ舞ひ
齋藤 光	飛石に従ひ歩く菊日和
櫻井 暎子	振り返る菊人形の面差しを
重田 康之	菊薫る古刹に鎮座道祖神
田中 道泰	人形の陰に菊師のさりげなく
土田 悦男	菊人形イケメン武將の太き眉
野下 晴夫	今少しざる菊丸く梅雨の庭
宮田奈津子	被綿に香り移して菊の花
森 小百合	菊人形換気良しでもこわかった
矢倉 弘泰	道の辺のどの地藏にも菊の花
矢沼 宏之	岩肌に乗りし懸崖白小菊
屋代順治郎	大輪の白菊並ぶ神社かな
吉武 繁廣	広前に今年も来たり老菊師

自由題：夏・秋

投稿者	作品
赤塚慎一郎	合歡の葉の寝入り端打つ夕立かな
浅見 茂	産着干大きく浮かぶ鰯雲
安藤 正紀	天の川昔日浮かべ孫に云う
石井 孝夫	大日仏はるかみおろす天の川
岩井鑛治郎	好まねど十薬の花明日摘まん
小俣 祥忠	菊茹でる妻の背中の丸くなり
海外 涼	魚釣る子等の歓声夏きざす
川上 千里	眠りても耳を離れぬ風の盆
川畑 耕祐	風鈴の音にまどろむ昼下がり
桑原 英雄	人去りし静けさの田の花菖蒲
黒山 茂英	雲ひとつなき武蔵野の残暑かな
小泉 隆広	炊き上がり嬢の呼ぶ声秋の暮
齋藤 修一	夕焼や空一面の静もれる
齋藤 光	何となく茶の間に集ふ夜長かな
櫻井 暎子	梅雨空に一人気を吐く紫陽の花
重田 康之	<small>わくらば</small> 病葉の散る田舎道静止せり
高野ちかの	にれの木の木立に漏れる遠花火
田中 道泰	夏至昏るる蝕の余韻を山の端に
土田 悦男	朝焼けや露のゆりかご蓮畑
野下 晴夫	百日紅誇る紅に立ち止まる
宮田奈津子	雨上がり星の雫の螢かな
森 小百合	イベントは夏祭りまでリモートで
矢倉 弘泰	ベランダに暮れゆく富士を眺めをり
矢治 宏之	黄昏に頬を赤らめ酔芙蓉
屋代順治郎	コロナ禍の延びし納骨秋日和
吉武 繁廣	織り色の空を呑みこむ青田かな